

読売新聞 きょう（1月15日）のイチ押し

1面・特別面・経済面 コロナ国内確認2年

新型コロナウイルス感染者が国内で初めて確認されてから、15日で2年になりました。感染者は累計で183万4361人、死者は1万8438人に上ります。

- ★ 国内で最初に感染者が確認されたのは2020年1月15日です。1年目の感染者は約31万人でしたが、感染力の強い変異株が流行した2年目は5倍の約152万人に膨らみました。
- ★ 感染者数は昨年4～6月の第4波が約32万人、同7～9月の第5波が約91万人と後の波の方が多くなっています。特別面ではこの2年間の感染者・重症者の推移を大きなグラフで示しています。
- ★ 現在は変異株「オミクロン株」が主流の第6波に入っていて、14日の国内の新規感染者数は4か月半ぶりに2万人を超えました。

1面・社会面 犯行計画スマホに記録 北新地放火容疑者

大阪・北新地の放火殺人事件で、昨年末に死亡した谷本盛雄容疑者が事件半年前の昨年6月以降、自分のスマートフォンに詳細な犯行計画や下見に関する記録を残していたことがわかりました。「死ぬときくらい注目されたい」や「日本史上最悪の凶悪事件はどんな事件がありますか」といった内容の検索履歴も含まれていました。クリニック関係者を巻き込む「拡大自殺」を周到に準備していたとみられています。

事件から今月17日で1か月になります。徐々に谷本容疑者の詳しい生活実態が明らかになってきています。預金は事件の2年前から底をついていて、周囲との交流もほとんどなく、大阪府警は困窮と孤立の果てに事件を起こしたとみています。

他紙と比べて

新聞記事を基にした教材に取り組むと、読解力が向上することが読売新聞の調査でわかりました。調査は、当社が今年度から実施する「読解力向上プロジェクト」の一環です。全国194校、計約2万6000人の小中学生が参加したテストを分析すると、記事を教材にしたグループはより高い得点をとっていました。分析の結果やプロジェクトの成果を特別面で紹介しています。